

FRONTE PRESS

横浜市泉区民文化センター テアトルフォンテ 月間スケジュール

フォンテ・プレス

2020.12

vol.86

monthly publication



新春1月16日(土)は
雅楽の公演です。
笙の奏者であり
今回の公演の要である
真鍋尚之さんに伺いました。



かくびわ
楽琵琶



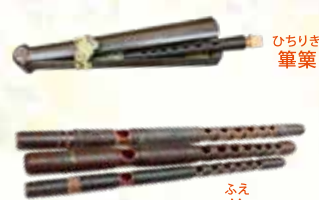
かくそう
楽箏



かくたいこ
楽太鼓



しょう
笙



ひちりき
箏篳



しょうこ
鉦鼓



かっこ
鞆鼓

雅楽とは?

雅楽と聞くとどのようなイメージを持つでしょうか?そのような質問をすると大抵の人は「神社で流れている」とか「お正月に聞く」となどという答えが返ってきます。宮中祭祀で重要な役割を果たす音楽ですので、神社やお正月とは切っても切り離せないのですが、752年の東大寺の大仏開眼供養会に向けて国が雅楽の演奏を強化していったという側面もあります。

世界最古のオーケストラといわれる雅楽は大寶律令で雅楽寮(うたまいのつかさ)が制定された701年に遡る事ができます。中国大陸や朝鮮半島から輸入された音楽や舞は当時の日本人の好みに合うよう数百年の歳月をかけ選定され改編されていきました。正倉院には大陸から渡ってきた当時の楽器や、現在淘汰されてしまった楽器も残っています。尺八も実はこの時代に日本に伝わり、雅楽では使われなくなった楽器のひとつなのです。

平安時代は雅楽が最も盛んに演奏され、独自の曲も作られていきました。現在聞く雅楽はこの時代に成立し、ほぼ形を変えていないと言われています。千年前に聞いていた音楽を現在も同じ様式で演奏しているのです。

えてんらく 越殿楽

雅楽というと越殿楽(越天楽)というイメージがあるかも知れません。中学校の教科書には必ず越殿楽が取り上げられますし、最近では小学校の教科書にも越殿楽今様が載っています。越殿楽は器楽合奏ですが、雅楽には歌や舞など非常に多くの変化に富んだレパートリーがあります。中国大陸や朝鮮半島から来た「外来の音楽」に分類されます。日本に大陸文化が

もたらされる前から行われていた宮中祭祀などの音楽に「日本古来の歌舞」があります。古代歌謡などとも呼ばれ、原始的な音の動きで歌われ、華やかな越殿楽などと比べ、これも雅楽なのか?というような独特な雰囲気を持っています。

しょう 笙という楽器

東南アジアにルーツを持つ笙は十七管の竹でできており、中国で完成された楽器が日本に入ってきたのが1300年ほど前。中国の楽器(笙=シェン)は多様に变化・進化していきましたが、笙(しょう)は当時の姿を留めています。十七管あるうちの二管は音が失われてしまいました。これも長い雅楽の歴史の中で不要な音が削られたという変化であり、別の歴史をたどった笙=シェンと比べると、日本人の進化の考え方が見えてくるのかなという気もします。美しい形を持つ笙の姿は鳳凰が羽を休める姿にも例えられ「鳳笙(ほうしょう)」とも呼ばれます。またその美しい音は天から差し込む光にも例えられます。

雅楽で使われる笛は横笛(おうてき)高麗笛(こまぶえ)神楽笛(かぐらぶえ)がありますが、横笛は現在、龍笛(りゅうてき)と呼ばれる事が多く、龍の鳴き声のような音色がするとも言われています。このように雅楽には鳳凰や龍など伝説上の生き物なども登場します。これも天平・奈良・平安文化に香りを色濃く残しているところでもあります。

箏篳(ひちりき)はとても小さな楽器ですが、葦(あし)のリードを用いても大きな音になります。地上の音・人の声などに例えられ、天上の光と地の声を龍が結ぶなどとも例えられます。

管・絃・打

冒頭に書いた通り、雅楽は世界最古のオーケストラと言われ、使われる楽器は3種の打楽器(打物(うちもの);鞆鼓(かっこ)、楽太鼓(かくたいこ)、鉦鼓(しょうこ))、2種の絃楽器(弾物(ひきもの);楽琵琶(かくびわ)、楽箏(かくそう))、3種の管楽器(笙、箏篳(ひちりき)、笛(ふえ))によって演奏されます。その演奏形態は「管絃」と呼ばれ管絃楽(オーケストラ)の語源ともなっています。

美しく装飾され漆で塗られた打物は、両側を撥で打つ締太鼓状の鞆鼓、鋏で鼓面を留めた釣太鼓である楽太鼓、金属製の当り鉦(あたりがね)の鉦鼓があります。

絃楽器は楽琵琶と楽箏、琵琶楽や箏曲の元になった楽器です。

日本には能楽・歌舞伎・箏曲など多くの伝統音楽がありますが、それらは時代ごとに成立し、独立して交わる事はありませんでした。これらの多彩な日本の伝統音楽の源流が雅楽なのです。

※越殿楽と越天楽について
どちらも同じ曲ですが表記方法が違います。教科書には越天楽が用いられていますが明治選定譜(明治時代に三方案所が東京に集まった時に作った統一された譜面)には越殿楽と表記されています。



雅楽—新春の調べ—

2021年1月16日(土)
14:00開演(13:00開場)
チケット発売中!